
Love in a chimney

ノリベー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Love in a chimney

【ZPDF】

Z0016B

【作者名】

ノリベー

【あらすじ】

あなたの部屋から、煙突から、そしてあなたの心まで、俺にきれいにできないものはないのだよ。

プロローグ

俺の職業は掃除屋だ。祖父の代からずっと掃除屋を営んでいる。部屋の掃除から煙突の掃除、トイレの掃除まで掃除のことならなんでもお任せといった具合だ。その椅子で必死に本を読んでいる俺の親父は去年この仕事を引退してのんびりと隠居生活だ。親父はこの街では有名な掃除屋で、親父が掃除した後には塵一つ残らないと言われているほどだ。俺は一昨年引退した親父に代わってこの仕事をしているというわけ。

「掃除屋の本当の仕事は依頼人の心まで綺麗にすることだ。」

これがわが掃除屋の信条。俺はこの台詞を毎日毎日仕事に行く前に復唱させられる。人の心は必ず汚れていると勝手に決めつけたような言い草だ。綺麗な人もいるだろ、と俺は思うわけだが、仕事を終えて依頼人の笑顔をみると「なんだ、この事か。」とか思つてしまつたりもする。

「今日はどこだ？」

親父は毎日俺の仕事先を聞く。そんなに俺のことが心配なのか？ そろそろ信用してくれよ。

「今日はチャールズさんの家だよ。また部屋が散らかってきたらしいよ。あの一家にも困つたものだね。何回掃除してもすぐに散らかすんだから。まあ掃除のしがいもあるつてものだけだ。」

「それじゃあチャールズ夫人によるしくと言つておいてくれ。またおいしいパンを頼むつてね。」

チャールズ夫人はパン屋を営んでいて親父の初恋の相手。昔は彼女ことが好きだつたらしい。昔醉つて何回も聞かされつたつけ。

「わかつたわかつた。じゃあ行つてくるよ。」

俺の朝はだいたいこんな感じで、これからが俺の、スワイープ・ケンウッドの一日の始まり。

「やあスワイープ。また煙突の掃除頼むよ。」

「スワイープ！果物持つてくかい？」

「スワイープ！今日も素敵ね。仕事がんばつて」

家を一步出たらだいたいこんな感じ。我が家は掃除屋は街のみんなに愛されているのだよ。それもそのはず、呼ばれればすぐに駆けつけ、仕事は丁寧かつ迅速、アフターケアも忘れない。どうだい素晴らしいだろ？そんなこんなで通りを抜けるとチャールズ夫人のパン屋さん。パンの香ばしい匂い。こここのパンは最高においしいんだよな。この街一番、いや、俺が思うに世界一だね。つと、俺が用があるのは店じやあなくて隣の赤いレンガの建物。さあ仕事だ！ん、その前に腹ごしらえだな。腹がへつては力がでないつてもんだ。

「来たねスワイープ。」

これはこれはチャールズ夫人いつにもまして化粧の濃いこと。

「仕事の前に腹ごしらえを。でもまだ焼きあがつてないみたいですね。」

「今焼けたところだよ。ほら、食いな。」

これはこれは、俺の大好物の焼きたてパンじゃないですか。ありがとう化粧の濃いチャールズ夫人。

「あんたにはがんばって仕事をしてもらわないといけないからね。特別に代金はいいよ。その代わりピッカピカにしておくれよ。」

「任しててくださいよ。我が家にかかるばどんなに汚い家もあつという間に新築同様。あなたの心もすつきりきれいに。」

恥ずかしいけど最初にこれを言わないと仕事が始まらないんだよ。父があなたによろしくと。またパンの配達お願ひしますよ。」

「毎度ありがとうございます。昼には届けとくよ。」

おいしかった。やつぱりこここのパンは最高においしいな。チャーリーズ夫人最高！化粧は随分と濃いけど。

「では、仕事に取り掛かりますね。」

「頼むよ。」

これはこれはよくこんなに汚したもので。1ヶ月でこんなにもなるものかね。まあ子供が6人もいたらしうがないのか？しかし何

から何までぐつちゃぐちゃ。本は山積み、『ミミは散らかり放題、冷蔵庫には何かの化石。ここより掃除のしがいのある家も他に無いだろうな。でもこんなに散らかった部屋も俺にとっては朝飯前。まあさつき朝飯は済ましたけど。親父に仕込まれた掃除テクニツク、とくとこ覧あれ。

あつという間に出来上がり。ピッカピカの新築同様。今日の仕事はこれだけだからあとは家に帰つて寝るだけだ。おつと昼飯と晩飯も忘れずに。

「おや、随分にきれいになつたね。新築のようだよ。」

「いえいえ、あなたもお綺麗ですよ、化粧の濃いチャールズ夫人。心もすっかりきれいになりましたかな？」

「また頼むよ。親父さんにもよろしくね。」

また…また散らかすつもりなのですね？チャールズ夫人。いくら掃除のしがいがあると言つても掃除した部屋がまた汚れていくのを見るのはなかなか悲しいものなのですよ？今度はおきれいにお使いくださいよ。

「では、また。電話一本でいつでも来ますよ。」

「またが無いことを願います。よろしくどうぞ。」

だいたい俺の一日はこんな感じ。掃除が俺の生活の中心つてわけ。

「おかげり。」

おや、まだその本を読んでいたの？その本いつたい何回目なんだ。最近ずつと読んでるじゃないか。

「ただいま。」

「チャールズ夫人は元気だつたかい？」

「ええそれはもう。変わらずお綺麗だったよ。あの歳になつてもあれだけ綺麗なのは不思議なもんだね。」

実際夫人は綺麗だと思うよ。何度も言うがかなり化粧は濃いけど。「彼女は昔から綺麗なんだよ。私が彼女と出会つたのは親父が引退して初めて一人で仕事を行つた時でね……。」

その話は何度も聞いたよ。部屋が綺麗になつたときの彼女の笑顔

に一日惚れしたんだろ？でもって彼女は親が決めた結婚相手と結婚。
それから自分も母さんと結婚して俺が産まれてつて、もういいよ。
何回聞けばいいんだよ。何回聞けば許してくれるんだ。親父はいつも
昔話が長いんだよ。歳をとるとみんなこうなるのかね。とにかく
俺の仕事はわかつてもうれたでしょ？俺は掃除屋。なんでも綺麗に
いたします。部屋から煙突からあなたの心まで、きれいにできない
ものは無いのだよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0016b/>

Love in a chimney

2010年11月12日20時11分発行